

立地条件に着目した整備新幹線駅の類型化による周辺の変容の分析

令和5年2月 角谷 拓海

要旨

目的

近年日本では整備新幹線の建設が進んでおり、その駅周辺では新たな都市開発等様々な効果が期待される。しかし、新幹線駅が都市の中心か郊外か在来線と接続するか等の立地条件や、駅の所在する市町村の規模は多様で、それにより周辺へ影響の大小に違いがある。本研究では、整備新幹線駅の立地条件の違いにより駅周辺の変容にどのような違いが生じるかを探り、今後の整備新幹線駅の選定や整備計画の一助となることを目的とする。

方法

新幹線駅が所在する市町村の人口や経済等の指標と、新幹線駅の立地等の指標のそれぞれについて、主成分分析を行った結果に対してクラスター分析を適用し、市町村の特性の類似度による分類と、新幹線駅の立地特性の類似度による分類を行う。この2種類の分類を組み合わせることで、新幹線駅の最終的な類型とする。次に、類型間で、新幹線駅開業前後の駅周辺の経年変化にどのような違いが生じているか比較分析する。

結論

市町村の特性による新幹線駅の分類の結果、「大都市」、「中都市」、「特殊発展都市」、「大都市近郊都市」、「小規模町村」、「小都市」の6つのクラスターに分類され、新幹線駅の立地等特性による分類の結果、「中心駅」、「小市街地駅」、「郊外駅」、「郊外新駅」、「単独駅」の5つのクラスターに分類された。2種類の分類を組み合わせると新幹線駅の類型とした。新幹線駅周辺の経年変化は、全体としては駅周辺の人口が増加傾向にあり、新幹線駅の開業効果が示された。類型ごとの変容は、大都市近郊都市や特殊発展都市での人口や建物用地の増加が顕著であること、大都市で建物用地の増加なしに人口が増加すること、郊外駅で市街地の拡大が起り得ること、駅周辺の発展に在来線との接続が重要であること等が示された。一方、小都市では小市街地駅で周辺人口が減少、郊外駅や郊外新駅でも維持か減少であったため、新幹線としての利便性を重視した駅の選定や周辺の計画が適切である。

指導教員 小山 茂 准教授